

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業
第75回会議参加者(11名)アンケート 集計結果

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

JSPSのHP	3	
JSPSのメールマガジン(JSPS Monthly)	0	
JSPSからのメールでの案内	2	
所属機関からの案内	1	
所属学会のHP、メールマガジン	0	
過去のリンダウ会議参加者からの案内	5	
日本人研究者からの案内	2	
外国人研究者からの案内	1	
日本学術振興会特別研究員 DCフレンドシップミーティングでの案内	2	
その他	0	

2-1. リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。

はい	11	
いいえ	0	

2-2. 上記のとおり回答した理由した理由は何ですか。

- ・多くのノーベル賞受賞者から、研究活動における姿勢を学ぶことが出来たから。
- ・過去の参加者に、“Life changing”だと聞いて参加しましたが、本当にそうでした。
- ・特に、ノーベル賞受賞者や海外の若手研究者との交流を通じて、研究に対する視座やモチベーションが高まり、今後の研究活動に対する指針や原動力になったと思う。
- ・歴史に名を残すノーベル賞受賞者の方々や活気に満ちた同世代の研究者たちと1週間に渡って交流するという、他の学会やイベントにはない貴重な経験を得られたため。
- ・通常の国際学会以上に、参加者同士やノーベル賞受賞者との距離が一層近いため、気さくに話をする事ができたため。
- ・言葉で表せないほどのインスピレーションを受けたまたとない機会であり、今後の研究における指針、ひいては自らの研究者としての理想像そして人生において成し遂げたい目標について明確にすることができたから。
- ・有益でない理由は見つからない。
- ・貴重な経験を数多くできたから
- ・ノーベル賞受賞者の講演や、日本からの参加者を含めた若手研究者との交流を通じ、研究に対するモチベーションを得られただけでなく、博士課程修了後の進路選択についても、参考となりうる様々な体験談・情報を得ることができたため。

3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

学術的な視野が広がった。	9	
通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。	6	
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	7	
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	4	
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	0	
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0	
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	9	

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	11	
いいえ	0	

5－1. 本事業への申請を検討するにあたり、何か懸念事項がありましたか。（複数回答可）

1週間という会期が長い	1	
博士論文の提出予定年度にあたる	0	
指導教員や直属の上司が本会議参加に協力的でない	0	
ラボメイトや同僚が本会議参加に協力的でない	0	
英語能力に自信がない	2	
研究業績に自信がない	2	
本会議の知名度が低い	0	
採用されるまでの競争率が高そう	5	
採用結果が判明する時期が遅い	3	
その他	0	

5－2. 上記の懸念事項をどのように乗り越えて申請を決意したかご記入ください。

- ・実験のスケジュールを調整しました。
- ・「ダメでもともと」と思い、とりあえず申請した。申請書類の分量が多くなかったことが申請の決意につながった。
- ・開催時期が他の学会と被っていたので申請を悩んだこともあったが、リンダウ会議の内容に強く惹かれて申請を決意した。
- ・英語能力や研究業績については自信が無いというより、客観的に過去の参加者と比べても特筆すべき能力はないと判断していました。ですので、申請書の内容をより分かりやすく自分の長所が分かりやすいように、さらに三分野合同でしたので、自分が三分野合同の大会に行ってなにを得てかえってこれそうか掘り下げることを意識して、申請を決意しました。
- ・狭き門であると覚悟はあったが、採択された際に得るものが大きいため挑戦した。
- ・留学先のボスにも推薦書の協力を頂いた
- ・私の英語能力や研究業績と、過去の参加者の方の声を照らし合わせて、この会議に参加できると思っておらず、懸念事項を乗り越えたというよりは通ったらラッキーだと思いつつ、ある意味気楽に申請をした。

6. 日本人参加者同士の交流の機会は持てましたか。

はい	11	
いいえ	0	